

31

秘

利  
權  
契  
約

北樺太石油株式會社

1138

0000 1138

### 利 權 契 約

千九百二十五年十二月十四日莫斯科市ニ於テ  
「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦（以下單ニ政府ト稱ス）ハ千九百二十五年十二月八日附「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦人民委員會ノ決定（第一三四號第一）ニ基キ、フエリツクスエドムンドキチ、ジエルジンスキーニヨリ代表セラレタル最高人民經濟委員會ヲ通シ又他方在莫斯科市日本大使ノ發給シタル千九百二十五年七月七日附証明書ニヨリ北「サガレン」石油企業組合（以下單ニ利權者ト稱ス）ハ千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ調印サレタル、日「ソ」基本相互條約議定書（乙）ニ基キ日本政府ノ推薦シタル當業者ニシテ本契約ノ締結ニツキ組合ヲ代表スル權限ヲ有シ且莫斯科市ニ於ケル日本大使ノ發給シタル千九百二十五年十二月五日附第四號証明書ニ基キ行動スル中里重次ヲ通シ鑛業企業ノ利權ニ付下記ノ如ク契約ヲ締結スルモノナリ

第一條

「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦政府ハ一般法律ノ除外例トシテ本契約ノ規定スル所ニ從ヒ利權者ニ對シ本契約ニ指示セラレタル地域内ニ於テ試掘、探掘及附帶事業ヲ行ヒ且ツ之ニ依リテ利益ヲ取得ノ權利ヲ許與ス

政府ハ敍上ノ目的ヲ以テ本契約ニ指示セラレタル「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ニ所屬スル財產ヲ本契約所定ノ期限及條件ニ依リ利權者ノ利用ノ爲引渡シ尙本契約ノ條件ヲ遵守シテ新設備ヲ行ヒ且之ヲ使用スルノ權利ヲ許與ス

利權者ハ本契約ニ依リ利權者ニ許與セラレタル權利並特權ノ範圍内ニ於テ行動シ且自己ノ技能ヲ發揮シ適切ナル産業的商業的經營ヲ爲シ以テ本契約所定ノ一切ノ義務ヲ履行スルノ責任ヲ有ス

第二條

本契約中別段ノ規定ナキ限り利權者ハ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ニ於テ同聯邦ニ於ケル現行ノ法律及將來公布セララルヘキ一般法律並之ニ基ク官憲ノ命令處分ヲ遵守スヘシ

第三條

利權者ハ本契約履行ノ爲契約中別段ノ規定ナキ限り「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ一般法律ニ從ヒ商行ヲ爲シ、財產ヲ貸借シ、取得シ及讓渡シ、訴訟上原告又ハ被告トナルノ權利並法人ニ對スル一般規定ニ從ヒ法人トシテノ權利ヲ享有シ貸借對照表ヲ公表スルノ義務ヲ負フ

第四條

本契約ニ依リ利權消滅後政府ニ引渡サルヘキ利權企業ヲ組成スル財產ハ之ヲ讓渡シ、擔保ニ供シ又

ハ利權者ノ債權ノ目的トナスコトヲ得ス

若シ修繕、改造工事或ハ設備ノ完了ニ依リ古機械、設備用品又ハ其ノ他ノ諸材料カ不用トナリタルトキ利權者ハ該物件ヲ隨意ニ處分シ且豫メ政府ニ通知スルコトニ依リ他ニ之ヲ讓渡シ又ハ關稅及特許料ヲ仕拂フコトナク外國ニ輸出スルコトヲ得

本條ノ規定ハ現存スル設備ノ外將來利權者ノ輸入スル設備ニモ之ヲ適用ス

第五條

利權企業ヲ組成スル財產ハ沒收、徵發又ハ其ノ他ノ強制處分ノ目的トナスコトヲ得ス

但利權者ハ軍事上戰時徵發ニ關スル一般規定ヲ遵守スヘシ、徵發ニ對シテハ正當ニ之ヲ補償ス

利權者ハ右同様交通及交通線ノ聯絡ノ必要上均シク土地収用ニ關スル法規ヲ遵守スヘシ

本條ノ規定ハ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ現行一般租稅法、郵便法並關稅法ニ依ル徵稅方法ノ適用ヲ妨ケス

第六條

本契約ノ効力發生後「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ中央政府又ハ地方官憲ノ法律其ノ他ノ規定又ハ處分ニ依リ本契約ニ依ル利權者ノ權利ヲ制限シ又ハ無効タラシメタルトキハ政府ハ其ノ總テノ損害ヲ賠償ス

前項ノ規定ハ第四十條ニ規定シタル場合ヲ除キ政府ハ其ノ一方的行爲ヲ以テ期限前ニ本契約ヲ廢棄シ或ハ變更スルコトヲ意味スルモノニアラス

第七條

利権者ハ本契約期間中獨占的ニ任意ニ利権企業ノ經濟的運用及ヒ管理ヲ爲シ得ルモ政府ハ權限アル者ヲシテ利権者ノ作業及商行爲ヲ監視セシムルコトヲ得  
但該官吏監視ノ權限ハ利権者ノ行爲カ「ソウイェト」社會主義共命國聯邦ノ法律ニ違反シ又ハ利権契約ノ條項ニ違背セサル限り利権者ノ作業及商行爲ニ對シテ于涉スルコトヲ得ス

第八條

利権者ハ政府ノ派遣スル地質學者、技師並技手ニ利権企業ニツキ實地研究ヲ爲スコトヲ許客スルト共ニ千九百二十三年五月二十二日ノ法令(千九百二十三年度政府法令及處分令集第四九號ノ第四八四頁)ニ依リ毎年「ソウイェト」社會主義共和國聯邦ノ高等工業學校學生及卒業者ヲ實習ノ爲作業ニ從事セシムル義務アルモノトス

第九條

利権者ハ本契約ノ効力發生ノ日ヨリ一ケ年内ニ株式會社ヲ設立スルノ義務アリ、而シテ利権者ハ同會社ニ本契約ニ依リテ生スル一切ノ權利義務ヲ讓渡スルモノトス  
前記ノ讓渡ニ對シテハ政府ノ認可ヲ要シ且該認可ハ同會社カ日本政府ノ推薦ニカ、ル場合ニ限り與ヘラル、モノトス

右ノ外前記ノ株式會社ニシテ本契約ヨリ生スル自己ノ權利並義務ノ全部若クハ一部ヲ第三者ニ讓渡セントスル場合ハ政府ノ許可アル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第十條

政府ノ本契約ニ記載セル期限及條件ニヨリ北樺太東海岸油山ノ左記鑛區ニ於テ原油、「キール」及可

燃性瓦斯ノ鑛業的試掘及探掘ヲ爲スノ特權ヲ利権者ニ許與ス

一、「オハ」油田區域

本區域ハ大小三〇ノ鑛區ニ分割セラレ其ノ中大鑛區ハ其ノ數二〇個(方形)各鑛區ノ面積三五「デシヤチン」ニシテ計七〇〇「デシヤチン」小鑛區ハ其ノ數一〇個各區ノ面積二二、五「デシヤチン」ニシテ計二二五「デシヤチン」兩者總計九二五「デシヤチン」ナリ。

小鑛區ノ内五鑛區ハ本區域ノ西側ニ他ノ五鑛區ハ其ノ東側ニ在リ本區域決定ノ際ニ於ケル基点ヲ

「ロータリー」式第一號井トシ同基点ヨリ本區域ノ境界ニ至ル座標左ノ如シ

北方境界迄 五九二・一六露尋、南方境界迄 八五六・九九露尋、

東方境界迄 七三八・二一露尋、西方境界迄 七九三・七二露尋、

「ロータリー」第一號井所在ノ鑛區ハ利権者ニ提供セラレ此鑛區ヲ基トシ基盤日形ニ相隣接セサル本鑛區ヲ利権者ノ有トス、網式第一號井所在鑛區ハ分割ノ際政府ニ割當ラルヘキモノナリト雖モ本條ニ示セル八油田内ニ存スル日本坑井ハ北京條約議定書(乙)ノ規定ニヨリ總テ日本側ニ附與交換セラルヘタ從ツテ利権者ノ區域内ニ包含セラルヘキモノナルヲ以テ双方合意ノ上左記ノ如ク鑛區ノヲ行ヘリ、即チ小鑛區ノ列ヲ加ヘ西方境界ヨリ第三列又北方境界ヨリ第三列ニ位置スル網式第一號井所在鑛區ヲ利権者ノ有トシ其ノ代價トシテ上記鑛區(隣接セル)ノ西方ニ位置シ小鑛區ヲ加ヘ本區域ノ西方境界ヨリ第二列、本區域ノ北方境界ヨリ數ヘ第三列ニ所在スル鑛區ヲ政府ノ有トス、附圖中ノ紅色ヲ施セルモノハ政府ニ無色ノ鑛區ハ利権者ニ屬ス

二、「エハビ」油田區域

本區域ハ一六鑛區(方形)ニ分割セラレ各鑛區ノ面積三七「デシヤチン」ニシテ總面積五九二「デシヤチン」ナリ、本區域ノ決定ノ際ニ於ケル基点ヲ上總掘第三號井トシ之ヲ「D」ト標記セリ「E」ヨリ座標ニヨリ本區域ノ境界ニ至ル距離次ノ如シ

北方境界迄 一五一・二五露尋、南方境界迄 一〇四〇・七五露尋、

東方境界迄 三七〇・五〇露尋、西方境界迄 八二一・五〇露尋、

「A」ト標記セル上總掘第三號井所在鑛區ハ利権者ニ提供セラレ此鑛區ヲ基トシテ碁盤目形ニ相隣接セサル全鑛區ヲ利権者ノ有トス、附圖中紅色ヲ施セルモノハ政府ニ無色ノ鑛區ハ利権者ニ屬ス

三、「B」リツン」油田區域

本區域ハ一二鑛區(方形)ニ分割セラレ各鑛區ノ面積三七「デシヤチン」ニシテ總面積四四四「デシヤチン」ナリ、本區域決定ノ際ニ於ケル基点ヲ上總掘第一號井トシ之ヲ「A」ト標記セリ、「B」ヨリ座標ニヨリ本區域ノ境界ニ至ル距離次ノ如シ

北方境界迄 三三九・二四露尋、南方境界迄 八五二・七二露尋、

東方境界迄 四九七・二三露尋、西方境界迄 三九六・七四露尋、

「A」ト標記セル上總掘第一號井所在鑛區ハ利権者ニ提供セラレ此鑛區ヲ基トシテ碁盤目形ニ相隣接セサル全鑛區ヲ利権者ノ有トス、附圖中紅色ヲ施セルモノハ政府ニ無色ノ鑛區ハ利権者ニ屬ス

四、「C」トウオ」油田區域

本區域ハ二四鑛區(方形)ニ分割セラレ各鑛區ノ面積三八・五五「デシヤチン」ニシテ總面積九二五・二〇「デシヤチン」ナリ、全區域ノ位置決定ノ際ニ於ケル基点ヲ「ロータリー」式第一號井トシ之

ヲ「R」ト標記セリ、「R」ヨリ座標ニヨリ本區域ノ境界ニ至ル距離次ノ如シ

北方境界迄 五六五・八四露尋、南方境界迄 一二五九・一八露尋、

東方境界迄 三八一・六七露尋、西方境界迄 一二二六・六七露尋、

東部ニ於ケル區域ノ位置決定ノ際ニ於ケル基点ハ上總掘第一號井ニシテ之ヲ「A」ト標記セリ「B」ヨリ座標ニヨリ區域ノ境界ニ至ル距離ハ次ノ如シ

北方境界迄 九八〇・〇一露尋、南方境界迄 二四六・六七露尋、

東方境界迄 一〇七・五〇露尋、西方境界迄 一四一・三三露尋、

「A」ト標記セル上總掘第一號井所在ノ鑛區ハ利権者ニ提供セラレ此鑛區ヲ基トシテ碁盤目形ニ相隣接セサル全鑛區ヲ利権者ノ有トス、附圖中紅色ヲ施セルモノハ政府ニ無色ノ鑛區ハ利権者ニ屬ス

五、「D」チャイウオ」油田區域

本區域ハ一六鑛區(方形)ニ分割セラレ各鑛區ノ面積二七・七五「デシヤチン」ニシテ總面積四四四「デシヤチン」ナリ、本區域ノ位置決定ノ際ニ於ケル基点ヲ上總掘第一號井トシテ之ヲ「C」ト標記セリ「D」ヨリ座標ニヨリ本區域ノ境界ニ至ル距離次ノ如シ

北方境界迄 五五八・六四露尋、南方境界迄 四七三・六四露尋、

東方境界迄 四五八・六四露尋、西方境界迄 五七三・六四露尋、

「C」ト標記セル上總掘第一號井所在ノ鑛區ハ利権者ニ提供セラレ此鑛區ヲ基トシ碁盤目形ニ相隣接セサル全鑛區ヲ利権者ノ有トス、附圖中紅色ヲ施セルモノハ政府ニ無色ノ鑛區ハ利権者ニ屬ス

六、「E」スイウオ」油田區域

本鑛區ハ一六鑛區(方形)ニ分割セラレ各鑛區ノ面積三七「デシヤチン」ニシテ總面積五九二「デシヤチン」ナリ、本區域決定ノ際ニ於ケル基点ヲ綱式第一號井トシ之ヲC1ト標記セリC1ヨリ座標ニヨリ本區域ノ境界ニ至ル距離次ノ如シ

北方境界迄 五〇七・二五露尋、南方境界迄 六八四・七五露尋、  
東方境界迄 五二六・〇〇露尋、西方境界迄 六六六・〇〇露尋、

C1ト標記セシ細掘第一號井所在ノ鑛區ハ利權者ニ提供セラレ此鑛區ヲ基トシ基盤日形ニ相隣接セサル全鑛區ヲ利權者ノ有トス、附圖中紅色ヲ施セルモノハ政府ニ無色ノモノハ利權者ニ屬ス

七、「ウイグレクーツキ」油田區域

本區域ハ一六鑛區(方形)ニ分割セラレ各鑛區ノ面積二四・六六「デシヤチン」ニシテ總面積二九五・九二「デシヤチン」ナリ、本區域決定ノ際ニ於ケル基点ヲ上總掘第二號井トシ之ヲA2ト標記セリA2ヨリ座標ニヨリ本區域ノ境界ニ至ル距離次ノ如シ

北方境界迄 一七三・二八露尋、南方境界迄 五五六・五六露尋、  
東方境界迄 六〇一・五六露尋、西方境界迄 三七一・五六露尋、

A2ト標記セシ上總掘第二號井ノ所在鑛區ハ利權者ニ提供セラレ此鑛區ヲ基トシ基盤日形ニ相隣接セサル全鑛區ヲ利權者ノ有トス、附圖中紅色ヲ施セルモノハ政府ニ無色ノ鑛區ハ利權者ニ屬ス

八、「カタングリ」油田區域

本區域ハ一六鑛區(方形)ニ分割セラレ各鑛區ノ面積三七「デシヤチン」ニシテ總面積五九二「デシヤチン」ナリ本區域決定ノ際ニ於ケル基点ヲ「ロータリー」式第一號井トシ Rotary No.1ト標記セリ

Rotary No.1ヨリ座標ニヨリ境界ニ至ル距離次ノ如シ

北方境界迄 九三九・〇〇露尋、南方境界迄 二五三・〇〇露尋、  
東方境界迄 四六七・二五露尋、西方境界迄 七二四・七五露尋、

Rotary No.1ト標記セシ「ロータリー」式第一號井所在鑛區ハ利權者ニ提供セラレ此鑛區ヲ基トシ基盤日形ニ相隣接セサル全鑛區ヲ利權者ノ有トス、附圖中紅色ヲ施セルモノハ政府ニ無色ノ鑛區ハ利權者ニ屬ス

備考

- 一、實地鑛區劃定作業ノ結果某區域内ニ於テ利權契約締結當時存在セシ坑井カ政府ノ鑛區中ニ編入セラル、コト判明セシトキハ政府ハ前記坑井ヲ中心トシテ一五露尋ノ半徑ヲ以テ圓形ヲ畫キ坑井ト共ニ其ノ部分ヲ自己ノ鑛區中ヨリ分與シ同時ニ政府ハ自己ノ選擇ニヨリテ利權者ノ鑛區中ヨリ同面積ノ土地ノ一部ヲ分割シ之ヲ政府ノ鑛區ニ併合ス、
- 二、鑛區ノ境界決定用ノ座標ハ經、緯度線ニ沿テ配置セラル、
- 三、本條既記八ヶ所ノ油田鑛區ノ圖面ヲ本契約ニ添附ス、
- 四、附圖八ヶ所ノ油田鑛區中彩色ヲ施ササルモノハ本契約ノ意味ニ於テ利權者ノ地域ヲ構成ス、

第十條

鑛業的試掘並採掘ノ爲利權者ニ提供セラルヘキ區域並以上ノ目的ノ爲前記區域外ニ於テ特ニ利權者ニ許容セラルヘキ地區内ニ存在シ本契約締結ノ際政府カ現ニ占有シ居ラサル建設物及機械器具ニシテ直接石油企業ニ關係シ且政府ノ所屬タルモノハ之ヲ利權者ニ引渡シ其ノ使用ニ供ス該建設物並機

械器具ハ利権者ノ希望スルモノニ限ル、引渡スヘキ總テノ財産ニ關シテハ双方ノ代表者立會ノ上其  
目錄ヲ作成シシテ附シ且引渡シノ際引渡證書ヲ作成シ双方ノ代表者之ニ署名シ本契約ニ添附スル  
モノトス

本契約第十條ニ依リ利権者ニ提供セラル、油田地區ノ實地境界ノ劃定並其ノ標柱ノ建設ハ契約署名  
後最近ノ夏期內ニ利権者ノ代表立會ノ上政府之ヲ行ヒ同時ニ双方ノ代表者立會ノ上實地劃定シタル  
油田地區ノ決定地圖ヲ作成シ双方ノ署名シタル特別調書ト共ニ之ヲ本契約ニ添附ス  
財産引渡及鑛區劃定ニ要スル費用ハ全部利権者ノ負擔トス

備考

利権者ハ正式ニ政府ヨリ本文ニ記載シタル財産ノ引渡ヲ受ケサルモ本契約効力發生ノ日ヨリ  
直ニ右財産ヲ使用スルノ權利ヲ有ス

第十一條

政府ハ本契約効力發生ノ日ヨリ起算シ十一ヶ年間北樺太東海岸ニ於ケル面積一千平方露里ノ地域ニ  
於テ石油、「キール」及可燃性瓦斯ニ關シ調査試掘ヲ爲スノ特權ヲ利権者ニ許與ス  
前項ノ地域ハ本契約効力發生ノ日ヨリ一ヶ年內ニ利権者ト協定ノ上政府之ヲ指定シ本契約ニ添附ス  
ヘキ地圖ニ其境界ヲ記入シ該地圖ハ分割スヘカラサル本契約ノ一部トス

第十二條

利権者ハ前條ノ地域內ニ於テ地質調査ノ結果ニ從ヒ各九六〇「デシヤチン」ノ地積ヲ有スル區域ヲ  
其ノ數ト場所トニ制限ナク毎年任意ニ選定シ試掘期間中同區域內ニ於テ鑛業的試掘ヲ行フ權利ヲ有

ス  
前項ニ示セル試掘區域ハ矩形ニシテ其ノ對立セサル各邊ハ三ト二ノ比ヲ以テ經、緯度線ニ沿テ配置  
セラル。

利権者ハ地方鑛山監督機關ト協定シタル期限內ニ前項ノ地區ヲ選定シ且届出ヲ爲スヘシ、鑛山監督  
官ハ右届書受領後氣候ノ妨ケナキ限り短期間ニ利権者ノ代表者ト實地立會ノ上該届出ニ係ル試掘區  
域ノ境界ヲ確定シ圖面ニ記入シ同時ニ試掘區域ヲ各八〇「デシヤチン」宛ノ十二試掘地區ニ分割シ  
其ノ對立セサル各邊ノ比ヲ一ト二トス。

第十四條

試掘作業ノ結果ニ徵シ一定ノ試掘區域カ工業的價值ナキコト分明セルトキハ利権者ハ參考ノ爲メ鑛  
山監督ノ地方機關ニ之ヲ届出ツル義務ヲ有シ該區域ハ政府任意ニ之ヲ處分ス。

地質調査ノ結果ト相俟テ試掘作業ニ依リ一定ノ試掘區域カ工業的價值ヲ有スルコト判明シ利権者ヨ  
リ之カ届出アリタルトキハ鑛山監督ノ地方機關ハ八〇「デシヤチン」宛ノ試掘地區ヲ折半シ之ヲ各  
四〇「デシヤチン」宛ノ方形ノ營業鑛區二個トス。

若シ政府カ試掘ノ結果得タル諸材料ニヨリ一定ノ試掘區域カ鑛業的價值ヲ有スルモノト判定セルモ  
試掘終了後六ヶ月內ニ利権者ヨリ之カ届出ナキトキハ上記ノ區域ハ政府ノ處分ニ歸スルモノトス。

利権者カ九六〇「デシヤチン」ノ試掘區域內ニ掘鑿シタル全坑井中其ノ一井ヲ基本坑井トス一定ノ  
試掘區域ヲ方形ノ採掘區ニ分割シタルトキハ政府ハ鑛區內ニ坑井ノ有無ニ關セス基盤目形（即チ互  
ニ相隣接セサル方法ニヨリ）ニ全方形ノ五〇%ヲ自己ノ爲メニ選定スル權利ヲ有ス。

政府ノ選定シタル營業鑛區内ニ坑井アルモ政府ハ之カ掘鑿ニ要シタル費用ヲ利權者ニ支拂フコトナシ。  
殘餘ノ方形五〇%ハ利權者ノ營業鑛區トシテ政府之ヲ交附ス。  
利權者ノ基本坑井カ政府ノ選定セル探掘鑛區内ニ編入セラル、場合ハ政府ハ自己ノ方形鑛區ヨリ該坑井ヲ含ム相當面積ノ部分ヲ利權者ノ地區ト相隣接セル方面ニ於テ分割シ其部分ヲ利權者ニ讓渡ス、政府ハ自己ノ選定ニヨリ利權者ノ地區ヨリ同一面積ノ土地ヲ收得シ其喪失セル部分ヲ填補ス。

第十五條

利權者ハ「ソグイェト」社會主義共和國聯邦ノ鑛山法ニ依テ許容セラレタル方法ニ據リ且極東鑛山署ノ發布スヘキ地中埋藏物ノ原油保護ニ關スル特別規定並利權地域ニ該規定ヲ實際ニ施スカ爲鑛山監督署ト利權者代表トヨリナレル混成委員會ニ於テ決定スヘキ實行方法ニ遵據シ許與セラレタル試掘地域及探掘鑛區ニ於テ調査試掘並探油ヲ行フ義務アルモノトス。  
利權者ハ本契約ノ効力發生ノ日ヨリ一ケ年内ニ極東鑛山署ニ次年度ノ試掘及探掘ニ關スル一般的計劃書ヲ提出スル義務アルモノトス。  
利權者ハ試掘地域ニ關シ次年度ニ對スル試掘計劃書ヲ試掘地域決定ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ極東鑛山署ニ提出スヘシ以後ハ前記同様ノ計劃書ヲ毎作業年度開始二ヶ月前ニ提出スヘシ。  
試掘、探掘ノ計劃並之カ實行方法ハ最モ完全ニ油田ヲ試掘シ且ツ正當ニシテ經濟的ナル探掘ヲ施シ得ル如ク案出セララルヘキモノトス。  
利權者ハ試掘及探掘作業ノ結果トシテ得タル總テノ事實及技術的統計的資料ヲ鑛山監督署ト協定シ

タル期間内ニ政府ニ提出スルコトヲ要ス。

地方鑛山監督機關ハ何時ニテモ利權者ノ經營ニ係ル試掘及探掘作業ヲ監査スル權能ヲ有ス利權者ハ該監査ニ關シ充分ナル援助ヲ與ヘ其ノ要求ニ應ジ試掘、掘鑿日誌、每坑井ノ掘鑿日誌寫、分折表、地層中ヨリ採取セル地質標本其ノ他ヲ技術的資料ト共ニ提供スル義務アルモノトス又利權者ハ自己ノ提供シタル資料檢定ノ用ニ供スル爲原油ノ比較試驗ノ標本取得ノ目的ヲ以テスル鑛山監督機關ノ臨檢ヲ許諾スルノ義務アルモノトス。

第十六條

利權者ハ各營業鑛區受領後一ケ年間ニ其ノ鑛區ノ測量ヲ完成シ五千分ノ一ヨリ小ナラサル縮圖ヲ作製シ各線間ノ距離五「メートル」ヨリ大ナラサル等高線技術的及其ノ他ノ諸設備並試掘作業ノ成績等ヲ圖上ニ記入スヘシ。  
上記ノ測量ヲ基礎トシ其後二ケ年間ニ地質圖ヲ作製シ之ニ斷面的圖解及相當ナル説明ヲ加ヘ地層ノ配列、地殼構造、油層及水層等ヲ表示スヘシ。  
上記ノ地質並其ノ記入事項ハ既往一ケ年間ニ於ケル試掘ノ結果ニ基キ年々之ヲ増補修正スヘシ。  
地形圖並地質圖ヲ作製シタルトキハ利權者ハ各其ノ一部ヲ地方鑛山監督署ニ提出シ且其後毎年地質圖ノ増補ヲ提出スルノ義務アルモノトス。  
政府カ一千平方露里ノ試掘地域ヲ決定シタル日ヨリ起算シ三年間ニ利權者ハ全地域ノ測量ヲ完成シ二分分ノ一ヨリ小ナラサル縮圖ヲ作製シ各線間ノ距離二〇「メートル」ヨリ大ナラサル等高線及試掘ノ結果ヨリ得タル一切ノ資料ヲ可及的詳細ニ同圖面ニ記入スルノ義務アルモノトス。



第十四條ニ從ヒ利權者カ營業鑛區割當ノ爲試掘區域均分ニ關シ届書提出ノ際ハ九六〇「デシヤチン」ノ試掘區域ヲ表示スル五千分ノ一ヨリ小ナラサル測量圖一部ヲ地方鑛山監督署ニ提出スルノ義務ヲ有ス、且同圖面ニハ各線間ノ距離「五メートル」ヨリ大ナラサル等高線及試掘ノ結果得タル一切ノ資料ヲ記入スルヲ要ス。

第十七條

本契約ハ其ノ効力發生ノ日ヨリ起算シ四十五年ノ期限ヲ以テ締結セララル。

備考

本條ニ示サレタル期限ニハ第十二條ニ明記セル一千平方露里ニ對スル試掘期間ノ十一ケ年ヲモ含ム。

第十八條

本契約ニ依リ利權者ニ提供セララル、權利並特權ニ對シ利權者ハ噴油以外ノ原油總産額ニ對シ左記割合ノ利權料ヲ政府ニ支拂フヘシ。

%	年産額 (メートル)噸以内	%	年産額 (メートル)噸以内
5.00%	30.000	10.00%	230.000
5.25%	40.000	10.25%	240.000
5.50%	50.000	10.50%	250.000
5.75%	60.000	10.75%	260.000
6.00%	70.000	11.00%	270.000
6.25%	80.000	11.25%	280.000
6.50%	90.000	11.50%	290.000
6.75%	100.000	11.75%	300.000
7.00%	110.000	12.00%	310.000
7.25%	120.000	12.25%	320.000
7.50%	130.000	12.50%	330.000
7.75%	140.000	12.75%	340.000
8.00%	150.000	13.00%	350.000
8.25%	160.000	13.25%	360.000
8.50%	170.000	13.50%	370.000
8.75%	180.000	13.75%	380.000
9.00%	190.000	14.00%	390.000
9.25%	200.000	14.25%	400.000
9.50%	210.000	14.50%	410.000
9.75%	220.000	14.75%	420.000
10.00%	230.000	15.00%	430.000
			噸及其ノ以上

噴油ヲ得タル場合利権者ハ左記ノ割合ヲ以テ利権料ヲ支拂フヘシ。

%	「メートル」噸
15%	10—50 迄
20%	60 迄
25%	70 迄
30%	80 迄
35%	90 迄
40%	100 迄
45%	100「メートル」噸及其ノ以上

本條第二項ニ規定シタル噴油トハ機械力ノ應用ナクシテ各井ヨリ自然ニ流出シ一晝夜一〇「メートル」噸以上ヲ産出スルモノヲ云フ。  
 利権者ハ坑井ノ瓦斯中ヨリ得ラル、「ガソリン」ノ年總産額ヨリ左記割合ヲ以テ利権料ヲ政府ニ支拂フモノトス。

10% (一割)	15% (二割五分)	20% (二割)	25% (二割五分)	30% (三割)	35% (三割五分)
1,000(千)立方呎ノ瓦斯中ニ	2(二) 英加侖以內ノ「ガソリン」ヲ含ム場合	2(二) 乃至 3(三) 英加侖迄	3(三) 乃至 4(四) 英加侖迄	4(四) 乃至 5(五) 英加侖迄	5(五) 乃至 6(六) 英加侖迄
	6(六) 及其ノ以上 英加侖				

利権料ハ各營業年度終了ノ日ヨリ三ヶ月以內ニ毎年在浦撫斯德國立銀行支店ヘ北米合衆國ノ金弗ヲ以テ納入スルモノトス。  
 利権料トシテ支拂フヘキ原油ノ數量ニ相當スル代價ノ算定ハ同一性質ノ原油ニ對スル營業年度終了前最近三ヶ月間ノ平均井戸元値段ニ依リ重油ニ對シテハ「カリフォルニア」油、輕油ニ對シテハ「ガルフ」油、何レモ米國石油雜誌(ナショナル、ベトロリウム、ニユース)ニ公表セラル、値段ヲ以テ算出ノ基礎トスルモノトス。  
 利権料トシテ支拂フヘキ「ガソリン」ニ相當スル代價ノ算定ハ前記雜誌ニ公表セラル、材料ニ基キ「ガルフ」(北米合衆國)ニ於ケル同一性質ノ「ガソリン」ニ對スル營業年度終了前最近三ヶ月ノ平均値段ニ依ルモノトス。

備考

一、雜誌「ナショナル、ベトロリウム、ニユース」カ廢刊トナリタル場合ハ政府及利権者双方協議ノ上他ノ米國石油雜誌ヲ選定スルモノトス、

二、輕油トハ比重〇・九〇三及其以下ノモノヲ稱シ、重油トハ比重〇・九〇三以上ノモノヲ稱ス、  
三、利權企業ノ營業年度トハ四月一日ヨリ三月三十一日迄トス、

將來橫濱市場ニ於テ樺太石油ニ對スル相場設定セラレ且北樺太東海岸ヨリ橫濱港ニ至ル商業上ノ海  
路運賃設定セラレタル場合ハ政府及利權者双方協定ノ上橫濱取引所ノ相場ニ依リ利權料ヲ算出スル  
コトヲ得、此ノ場合算出基礎ハ橫濱港 C i F 渡し樺太石油ニ對スル橫濱取引所ニ於ケル營業年度  
終了前最近三ヶ月間ノ平均相場ヨリ普通ノ運賃並保險料ヲ控除シタルモノトス。

利權者カ利權料支拂ヲ延滞セル場合ハ未納額ニ對シ一ヶ月一%ノ延滞料ヲ支拂フモノトス、利權料  
ノ支拂一ヶ年延滞スルトキハ政府ハ本契約第四十條ニ基キ利權契約ヲ廢棄スル權利ヲ有ス。

第十九條

利權者ハ支障ナク且關稅ヲ支拂フコトナク其ノ採收セル原油「ガソリン」及「キール」ヲ外國ニ輸出  
スル權利ヲ有ス、利權者ハ其ノ目的ヲ達スルカ爲在日本「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ商務  
官又ハ貿易人民委員會ノ當該機關ニ原油「ガソリン」及「キール」ノ輸出豫定量ヲ毎年届出テ之カ  
輸出ニ對シ無料ニテ同機關ノ許可ヲ受クヘシ。

第二十條

利權者ハ裁判費並本契約ニ特ニ定メラレタル公課並料金ヲ除キタル一切ノ一般國稅及地方稅ニ對ス  
ル代價トシテ原油及「ガソリン」ノ年産額ニ相當スル價格中ヨリ政府ニ支拂フヘキ利權料ヲ控除シ  
其ノ餘額ノ三・八四%ニ相當スル金額ヲ政府ニ支拂フヘシ。  
石油並「ガソリン」ノ價格ハ第十八條ニ規定シタル利權料ニ對スル計算法ヲ準用ス。

利權者ハ本條所定ノ一般稅ヲ毎年利權料ノ納付ト同時ニ在浦蘆斯德「ソヴィエト」社會主義共和國  
聯邦國立銀行ノ一支店ヘ拂込ムヘシ。

利權者カ一般稅ノ納付ヲ延滞シタル場合ハ未納額ニ對シ一ヶ月一%ノ延滞料ヲ支拂フヘシ。  
一ヶ年間納稅ヲ延滞スルトキハ政府ハ第四十條ニ基キ利權契約ヲ廢棄スル權利ヲ有ス。

第二十一條

利權者ハ支障ナク且關稅及特許料ヲ支拂フコトナク利權企業上ノ供給及設備ニ要スル機械及其ノ部  
分品、工業用物品並諸材料、勞働者及從業員ノ爲ニ供給セラル、一切ノ日用品並食糧品ヲ輸入スル  
ノ權利ヲ有ス。

利權者カ上記ノ權利ヲ實行セントスルトキハ毎年日本ニ於ケル「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦  
ノ商務官又ハ内外貿易人民委員會ノ當該機關ニ當該年度ニ於ケル上記輸入物品ノ推定數量ヲ記載シ  
タル正確ナル品目書ヲ提出シ之カ許可ヲ受クヘキモノトス。

或種ノ機械カ修繕ヲ要スルニ當リ若シ企業地ニ於テ修理スルコト能ハサルトキハ利權者ハ關稅ノ支  
拂ヲ要スルコトナク之ヲ輸出入スル權利ヲ有ス、修理ノ要否ハ鑛山監督署ノ地方機關ニ依テ証明セ  
ラレ輸出シタル機械ハ輸出當日ヨリ十三ヶ月以内ニ再ヒ企業地ヘ輸入セラルヘキモノトス。

利權者ハ機械ヲ輸出スルニ際シ輸物件價格ノ五倍ニ相當スル金額ヲ保証金トシテ浦蘆斯德市或ハ  
「アレキサンドロフスク」市所在ノ國立銀行支店ヘ拂込ム義務ヲ有ス、若シ修理ノタメニ輸入セラ  
レタル設備品カ右期間内ニ還送セラレサルカ或ハ同一價值ノ代品ヲ換置スルニ非レハ利權者ノ拂込  
ミタル同保証金ハ政府ノ任意處分ニ歸スルモノトス。

利権者カ附帶事業ノ機械ヲ据付ケ又ハ設備ヲ施スカ爲或種ノ作業ヲ請負者ニ請負ハシムル場合ハ政府ハ利権者ニ對シ請負者ノ所有ニ屬スル工用器具、諸材料等ヲ關稅及特許料ノ支拂ヲ要スルコトナク輸出シ又ハ輸入スル權利ヲ附與ス。

輸出又ハ輸入スヘキ工用器具、諸材料ノ品目書ハ在日本ノ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ商務官又ハ内外貿易人民委員會ノ當該機關ニヨリテ認可セラルヘキモノトス但該認可ハ利権者ヨリ提供スヘキ請負事業ニ關シ締結シタル契約書並政府カ請負者ニ對シ該請負ヲ行フカ爲之ニ相當スル權利ヲ附與シタル同許可書ニ基キテ之ヲ行フヘキモノトス。

利権事業ニ對スル勞動者並從業員ノ私有物ハ現行ノ關係法規ニ從ヒ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ヘ輸出又ハ輸入スルコトヲ得。

日本ニ於ケル「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ商務官若シクハ之ニ該當セル「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ内外貿易人民委員會ノ機關ニ依リ認可セラレタル品目書ニ記載ノ物品ハ全部各個ニ對スル認可ヲ要スルコトナク「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ稅關ヲ通關シ得ヘキモノトス。

利権企業ニ關スル勞動者並從業員ニ對スル日用品ハ其ノ外國ヨリ輸入セラレタルモノト「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ領土内ニ於テ得ラレタルト否トヲ問ハス均シク實價ヲ以テ利権者ニ依リテ供給セラルヘシ、但右實價ハ北樺太鑛山監督署長ノ認定ニ依ルモノトス。

第二十二條

利権者カ第二十一條ニ從ヒ國外ヨリ輸入セシ一切ノ日用品並食糧品ハ當該地方政府機關ノ許可ナキ

限リ利権者ハ之ヲ内地市場ニ於テ販賣スルコトヲ得ス。

若シ以上ノ許可ヲ得ル能ハサルトキハ利権者ハ支障ナク關稅及特許料ノ支拂ヲ要スルコトナクシテ前記物件ヲ外國ヘ逆輸出スル權利ヲ附與セラルヘシ。

第二十三條

利権者ハ原油ノ試掘並採油ノ作業ニ必要ナル範圍ニ於テ試掘地域並營業鑛區ノ地表ヲ無償ニテ使用スル權利ヲ有ス。

利権者ハ其目的ノ爲上記ノ地域内ニ住宅、住宅ニ非サル各種ノ建築物、工業的工作物及其他ヲ築造スルコトヲ得。

利権者ノ申請ニヨリ農務人民委員會ノ地方機關ハ利権企業並其ノ勞動者及從業員ノ需用ニ應スルノ爲上記ノ地域並地域外ニ於テ栽培及牧畜上必要ナル土地ヲ分與スヘシ。

農業用地ノ使用ハ一般法規ニ從フヘキモノトス。

本條ノ規定ハ第三者又ハ地方機關ノ正當ニ使用シツ、アル地區ニ適用セラレサルヘシ、利権企業ノ組織並發展ノ爲利権者カ前記地區ノ占有ヲ必要トスルトキハ各占有者ト協議ノ上之ヲ使用スル權利ヲ許與セラル。

第二十四條

利権者ハ利権期限ヲ超過セサル範圍ニ於テ試掘<sup>ノコシヤク</sup>地域並營業地域及本目的ノ爲ニ上記ノ地域外ニ於テ地方官憲トノ協定ニ依リ無償ニテ交附セラルヘキ地域ニ於テ左記ノ附帶設備即チ引込線、鋪石道路、狹軌道、索道、修繕工場、製材所、實驗室、鐵工所、倉庫、「ガソリンプラント」、小製油所設備、發

電所、及類似ノ附帶設備並利權企業ニ従事スル従業員及労働者ノ要求スヘキ供給品及利用品ヲ製造スル各種ノ工場並糧食倉庫ヲ設立スル權利ヲ有ス。  
利權者カ製油所及石油加工工場ヲ設置セントスルトキハ政府ト特別ナル協定ニヨリテノミ之ヲ許可セラル。

利權者ハ地方官憲並鑛山労働組合ト協定ノ上利權企業ニ従事スル労働者及従業員ノ爲文化設備並醫術衛生設備ヲ行フ權利ヲ許與セラル。

第二十五條

利權者ハ無償ニテ各個ノ油田ヲ相互ニ又ハ各個ノ油田ト海岸トヲ聯絡スル送油管ヲ敷設スル權利ヲ有ス、送油管ノ方向、設計及敷設ニ關スル技術上ノ條件ハ「ソグイエト」社會主義共和國聯邦政府ノ認可ヲ要ス。

利權者ハ無償ニテ北樺太領海内ニ於ケル「タンク」船ノ錨地迄送油管ヲ延長スル權利ヲ有ス、送油管ノ方向、設計、其他技術上ノ條件ニ關シテハ「ソグイエト」社會主義共和國聯邦政府ノ認可ヲ要ス。

利權者カ一油田地内ニ於ケル別箇ノ探掘鑛區ヲ送油管ヲ以テ互ニ聯絡セントスルトキハ鑛山監督ノ地方機關ト豫メ其方向ニ關シ協定ヲ遂クルコトヲ條件トシテ政府ハ之カ敷設ニ關スル權利ヲ利權者ニ許與ス。

利權者ハ利權企業ノ作業ニ差支ナキ限リ政府ノ要求ニ應シ政府ニ屬スル原油ヲ自己ノ送油管ヲ通シ送油スルノ義務ヲ有ス。

以上ノ目的ノ爲政府ハ自己ノ送油管ヲ利權者ノ送油管ニ連絡スル權利ヲ有ス

政府ニ屬スル原油ヲ利權者ノ送油管ニヨリ輸送スル料金ハ利權者ノ送油實費タルヘシ

第二十六條

粘土、砂、石、石灰等利權事業ノ爲必要ナル一切ノ普遍的探掘物ハ賣却ノ目的ニ非サル以上利權者ハ利權地域内ニ於テ無料ニテ之ヲ採收スルコトヲ得、利權地域外ニ於ケル右普遍的探掘物ノ利用ハ均シク無償タルヘシト雖モ地方鑛山署長ノ交附スル許可証ニ依テ行フコトヲ得

第二十七條

利權者ハ無償ニテ利權區域内ニ於ケル水、水域及水力ヲ利用スル權利ヲ有ス、如上ノ目的ノ爲地方官憲ノ許可ヲ得テ各種ノ設備ヲ爲スコトヲ得、右ノ權利ヲ實現スルニ際シ利權者ハ左ノ義務ヲ負フ

A、水、水域及水力ヲ利用スルカ爲隣區ノ利益ヲ毀損セサルコト

B、利權區域ヲ經テ隣接セル區域ヨリ排水、誘水ノ爲ニ溝渠、排水溝其ノ他ノ施設ヲ爲サントスル場合ハ之ヲ許諾スヘク又隣區ヨリ利權區域ヲ通シテ道路ヲ開鑿シ輸送設備ヲ爲サントスル場合モ亦之ニ準シテ異議ナカルヘキコト

C、一般ノ使用シツ、アル流水ヲ利用スル場合ハ衛生監督ノ規定ヲ遵守スヘキコト

D、水、水域及水力利用ニ付テハ地方住民ノ漁業及交通上ノ利益ヲ毀損セサルコト

利權地域外ニ於ケル水及水域ノ利用モ亦無償タルヘシト雖モ之ヲ實行セントスルトキハ地方官憲ト特別ノ協定ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條

利権者ハ豫メ交通人民委員會極東機關ノ認可ヲ得其監督ノ下ニ浚渫作業ヲ行フ權利ヲ有ス  
利権者ノ行フ上記ノ作業ハ水路使用ニ關スル公衆ノ利益ヲ侵害セス且ツ隣接區ノ工事ヲ妨ケサルコ  
トヲ要ス

### 第二十九條

利権者ハ其ノ試掘區域内及採掘鑛區内ニ於ケル森林ヲ事業ニ必要ナル程度ニ限リ利用スル權利ヲ有  
ス、但之ヲ販賣スヘカラス、叙上ノ鑛區地域外ニ於テ利権者ハ事業ノ必要上伐採用トシテ北樺太ニ  
於テ必要ナル備林區域ヲ獲得スル件ニ付キ極東廳ノ同意ヲ得テ之ヲ行フコトヲ得  
本條第一項及第二項ニヨリ利権者ニ許與セラル、森林ハ第十條所定ノ既開油田八ヶ所ノ森林ヲ除キ  
現行ノ拂下價格ニヨリ之ヲ拂下クヘシ  
右ノ條件ハ利権契約實行中政府ニ於テ五ヶ年毎ニ之ヲ審査スヘシ  
第十條所定ノ既開油田八ヶ所ニ於ケル森林ハ企業上ノ必要ノ爲並住宅利権企業ノ文化設備、衛生設  
備等ノ用材及燃料用トシテ利権者ニ無償ニテ附與セラルヘシ  
道路開鑿、送油管敷設、火災防止線ノ設定、建築物及工作物築造ノタメ障害トナルヘキ森林ヲ伐採セ  
ントストキハ豫メ鑛山監督地方機關ノ証明書ヲ得、農務人民委員會ノ地方機關ニ之ヲ提出シ其ノ  
許可ヲ得テ其ノ作業ヲ行フヘシ以上ノ手續ニヨリ伐採セラレタル木材ニ對シテハ代金ノ支拂ヲ要セ  
ス

### 第三十條

利権企業ニ關スル労働條件ハ之ニ關係ヲ有スル「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦現行並將來發布  
セラルヘキ法律及利権者ト當該職業組合トノ間ニ締結セラルヘキ團體契約ニ依リテ支配セラルヘシ  
上記ノ條件ハ労働者ノ國籍ノ如何ニ拘ラス企業ノ労働者及従業員全部ニ適用セラルヘシ  
利権者ハ労働者及従業員ノ社會保険料トシテ同種類ノ國營企業ト同一額ヲ納付スヘキモノトス  
利権者ハ利権企業ニ従事スル總テノ労働者並従業員ニ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ニ依  
テ規定セラレタル住宅衛生ニ關スル標準ニ適應シタル住宅ヲ無償ニテ提供スルノ義務ヲ有ス

### 第三十一條

利権者ハ利権企業ノ經營上左記ノ權利ヲ有ス  
A、外國人ノ高級職員並高級熟練職工ヲ五割迄招致スルコト  
備考 前記ノ制限ハ各監理者、各鑛場長及各部長ニ適用セラレサルヘシ  
B、中下級ノ労働者並平労働者ヲ合セタル總數ノ二割五分ヲ超過セサル範圍ニ於テ外國人ノ中下  
級熟練労働者並平労働者ヲ招致スルコト  
利権者ハ毎年四月一日及七月十五日頃ニ所要労働者ノ員數ト其ノ種別階級ヲ浦蘆斯德勞働支部ニ申  
込ムヘシ浦蘆斯德勞働支部ハ五月十五日及八月三十日ヨリ遅延セサル期間内ニ利権者ノ申込ニ從ヒ  
提供シ得ル労働者並従業員ノ員數ヲ利権者ニ通知スルノ義務ヲ有ス  
浦蘆斯德市ヨリ利権企業地ニ至ル迄ノ労働者並従業員ノ往復輸送ハ利権者之ヲ行ヒ該輸送ニ關スル  
一切ノ費用ハ利権者ノ負擔トス、利権者ハ其雇入シタル労働者及従業員ニ對シ浦蘆斯德乘船七日前

ヨリ賃銀ヲ支給スル義務ヲ有ス

若シ浦蘆斯德勞働支部カ利権者ノ要求ニ依リ「ソグイエト」社會主義共和國聯邦市民或ハ「ソグイエト」社會主義共和國聯邦領土内ニ居住スル外國人中ヨリ利権者所要ノ勞働者ヲ提供シ能ハサルトキハ利権者ハ任意ノ數ノ外國人勞働者並從業員ヲ雇傭スル權利ヲ有ス

利権者ノ要求ニヨリ浦蘆斯德勞働支部ノ供給シタル外國人ノ勞働者並從業員ハ本契約「A」及「B」兩項ニ規定シタル外國人ニ對スル比率中ニ算入セラレサルヘシ

利権者ハ政府ノ同意ヲ得北樺太「アレクサンドロフスク」市並黑龍江岸「ニコラエフスク」市ニ於ケル勞働支部ヘ勞働力ノ供給方ヲ申込ムコトヲ得ヘシ

「A」及「B」兩項ニ示シタル外國人勞働者並從業員ノ比率ハ漸次遞減セラレ且三年毎ニ更改セラレヘシ

利権企業ニ惹起シタル大損害ヲ至急ニ復興スル必要ニ際シ利権企業ニ從事スル勞働者ノ援助ニ依リテ之ヲ復興スルコト能ハサルトキハ政府ハ利権者ニ同損害ヲ復興スルニ必要ナル期間中任意ノ數ノ専門家並勞働者ヲ招致スルノ權利ヲ附與ス

本條ニ規定セラレタル勞働者及從業員ノ割合ノ關係ハ千九百二十六年航海期間中ニ利権者ハ適當ナル移動ヲ行ヒ同年十月迄ニ「ソグイエト」社會主義共和國聯邦市民及外國人勞働者並從業員ノ比率ヲ實現スヘキモノトス

### 第三十二條

利権企業ノ勞働者、從業員及其ノ家族ニシテ北樺太ニ出入ノ際ハ其ノ旅券手續上相當ノ便宜ヲ許與

セラルヘシ、之カ爲メ「ソグイエト」社會主義共和國聯邦政府ハ東京及函館ニ於ケル同國領事館並北樺太駐在外務人民委員會ノ出張員ニ相當ノ訓令ヲ發スヘシ

### 第三十三條

利権者ハ自用ノ爲別個ノ各採掘地區内ニ無償ニテ新ニ電話線ヲ架設シ又ハ現ニ存在スル電話線ヲ任意ニ使用スル權利ヲ有ス

利権者カ一油田地域内ノ別個ノ採掘地區間ヲ連結スル電話線ヲ架設セント欲スル場合ニハ豫メ政府ノ採掘鑛區ヲ管轄スル機關ヨリ必要ナル認可ヲ受ケ之ヲ行フコトヲ得ヘシ、又利権者カ異ナリタル油田地域内ノ採掘地區ヲ連結シ或ハ利権企業ニ於ケル各設備ニ利権者ノ一般電話線ヲ連結シ又ハ一千平方露里ニ互ル試掘區域内ニ電話線ヲ架設セント欲スル場合ニハ郵電人民委員會ノ諸法規ニ依リ同委員會地方機關監督ノ下ニ同線ヲ架設シ並之レヲ使用スルコトヲ得前記ノ規定ハ均シク別個ノ油田區域外ニ既ニ架設セラレタル電話線ニモ適用セラレヘシ

利権者ハ北樺太ニ於ケル政府ノ機關並其出張員ニ電話線ノ使用ヲ無償ニテ許諾スルノ義務ヲ有ス、之カ爲メニ利権企業ノ作業ヲ妨害セラル、コトナカルヘシ、右使用ニ關スル手續ハ政府ノ機關ト利権者相互ノ協議ニ依テ確定セラルヘシ

### 第三十四條

「ソグイエト」社會主義共和國聯邦ト日本政府間ニ「オハ」並「チャイオ」無線電信所引渡ニ關スル協定成立スル迄「ソグイエト」社會主義共和國聯邦政府ハ其ノ領土内ニ於ケル無線電信所ノ運用ニ關スル現行規則ニ從ヒ郵電人民委員會ノ地方機關監督ノ下ニ上記無線電信所ノ利用ヲ利権者ニ許

可ス  
利權契約有効期間内ニ新ニ無線電信所設置ノ必要ヲ感シ「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦ノ政府  
カ該必要ヲ充ス能ハサルトキハ郵電人民委員會ト別個ノ協定ニヨリ政府ハ利權者ニ利權地域内ニ新  
ニ無線電信所設置ノ權利ヲ附與スルコトアルヘシ

### 第三十五條

利權企業ニ屬スル船舶並利權者ノ備ヒ入レタル船舶ハ現ニ存在シ又ハ將來制定セラル、コトアルヘ  
キ手數料ヲ支拂ヒ「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦ノ法規ニヨリ一般使用ノ爲開カレタル北樺太  
沿岸ノ港灣ニ出入スル權利ヲ有ス此等ノ船舶ハ豫メ交通人民委員會ノ同意ヲ得タル場合ニ限リ北樺  
太ニ於ケル其ノ他ノ沿岸地点ニ寄港スルコトヲ得、此際船舶ハ最寄ノ税關出張所ニ於テ検査ヲ受ケ  
同所ヨリ適當ナル證明書ノ交付ヲ受クルモノトス  
然レトモ地方税關吏ノ同意ヲ得タルトキハ前記以外ノ地点ニ於ケル荷物積卸場ニ於テ船舶ノ検査ヲ  
受クルコトヲ得ヘシ、但税關吏ノ出張費ハ利權者之ヲ負擔スルモノトス  
上記ノ船舶ハ専ラ利權企業ノ生産物其ノ設備用品及供給品利權企業ニ從事スル労働者、従業員ニ對  
スル食糧品及給與品並労働者、従業員並其ノ家族及利權企業ノ爲メニ派遣セラル、者ノ輸送運搬ノ  
爲使用セラルヘキモノトス  
小型補助船舶（四十馬力以内ノ小蒸氣、發動船並登簿噸數一五〇噸未満ノ汽船一隻）ニシテ石油バ  
ーヂノ曳行、木材並利權企業ニ必要ナル食糧品及供給品ノ輸送及労働者、従業員並家族ノ輸送ニ從  
事スル場合ハ北樺太東海岸ニ沿ヒ自由ニ航行スル權利ヲ有ス

### 第三十六條

利權者ハ豫メ當該地方機關ノ認可ヲ受ケ小規模ノ荷積場、繫船岸、起重機並荷積卸ニ供スル其ノ他  
ノ設備ヲ築造スル權利ヲ有ス  
將來事業ノ進捗ニ應シ利權者カ築港ノ必要ヲ認メタルトキハ豫メ其ノ位置、設計及築造條件等ニ關  
シ交通人民委員會ト協議スヘシ  
利權者ノ築造シタル港灣ハ交通人民委員會ノ管轄ニ歸ス利權者ハ交通人民委員會ト豫メ條件ヲ協定  
シ該港灣ノ一定區域ヲ營業的ニ使用スルコトヲ得

### 第三十七條

利權者ハ「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦ノ保險部ニ自費ヲ以テ其ノ實價ニ依リ政府名義ノ下ニ  
利權企業ニ屬スル一切ノ建築物及工作物並其ノ設備及機械器具全部ヲ火災保險ニ附スル義務ヲ有ス  
但利權者ハ坑井挿入管、送油管、水管、蒸汽管、狹軌道及土工物ヲ保險ニ附スル要ナシト雖モ此等  
ノ設備ニシテ火災ニ罹リ滅失シ又ハ損害ヲ被リタル場合ニハ利權者ハ自費ヲ以テ該設備ヲ復興スル  
義務ヲ有ス  
保險料ハ國營企業ト同一ニシテ利權者ヨリ之ヲ徵收ス  
保險ニ附シタル財産カ火災ニヨリ滅失シタル場合ハ保險部ハ保險法ニ規定セル期限内ニ被害程度ヲ  
調査シ精算終了後利權者ノ要求ニヨリ精算書類ノ寫ヲ利權者ニ交付スヘシ  
利權者ハ保險部代理者ノ火災地ニ到着スルヲ俟タス燒失シ或ハ損害ヲ被リタル財産ヲ復興スル權利  
ヲ有ス、但此ノ場合利權者ハ地方官憲ト立會ノ上火災ニ依ル損害價格ヲ豫メ評定スヘシ



火災ニ依ル損害ニ對スル保險金ハ利權者ノ名義ニテ「ソグイェト」社會主義共和國聯邦ノ國立銀行ノ一支店ニ預入セラレ利權者ハ政府監督ノ下ニ企業復興ノ程度ニ從ヒ前拂ニテ該預金ヲ一部宛引出スコトヲ得ヘシ

### 第三十八條

利權期限滿了ト共ニ利權企業ハ本契約ニ從ヒ其ノ全建築物、改良工事、設備並機械器具ト共ニ最後ノ五ケ年間ノ平均ヨリ劣ラサル生産ヲ支障ナク可能ナラシムヘキ状態並組織ニ於テ本契約ニ從ヒ無償ニテ政府ニ移轉セラル、モノトス  
本契約有効期限ノ最後十年間ニ政府ノ同意ニ依リテ利權企業ニ施サレタル建築並改良工事中左記ノ原價償却率ニ從ヒ未タ原價償却ヲ了ヘサル部分アルトキハ政府ハ利權期限滿了後最近六ケ月間内ニ利權者ニ之レヲ償却スルノ義務ヲ有ス、利權者ノ出費ニ對スル各年ノ原價償却率ハ石造建物、鐵槽及鐵管ニ對シ三%機械並設備ニ對シ七%木造家屋及舁ニ對シ五%トス  
貯藏中ノ諸材料食料品、従業員ニ對スル供給品及既製ノ產物、半製品、現金及其他ノ流動資産ハ利權者ノ所有トシテ殘ルモノトス  
利權者ハ本條ノ規定ニ遵ヒ利權期限滿了後三ケ月以内ニ企業ヲ政府ニ引渡ス義務ヲ有シ同期間内ニ利權者ハ政府トノ全計算ヲ終ヘサルヘカラス、利權者ハ上記ノ條件遂行後一年内ニ支障ナク其ノ所有ニ屬スル財産ヲ利權地域外ニ搬出スルコトヲ得且關稅ヲ支拂フコトヲ要セス  
前記期間内ニ利權地域外ニ搬出セラレサル利權者ノ財産ハ無償ニテ政府ノ所有ニ歸ス  
利權者ノ債務及責任ハ其ノ何レノ場所ニ於テ發生セラル、ヲ問ハス政府ニ轉嫁セラル、コトナシ

### 第三十九條

本契約中何時ニテモ不可抗力ニ依リ本契約又ハ其一部ノ條項ヲ履行スル能ハサル場合ニハ契約當事者ハ相互ニ不可抗力ノ繼續スル期間中各自ノ義務ノ履行ヲ遲延シ得ルコトヲ約ス  
但シ本契約ノ基本的期限ヲ延長スルコトナシ

### 第四十條

政府ハ左記ノ場合ニ利權契約ヲ其ノ期限前ニ廢棄スル權利ヲ有ス

A、利權者カ「ソグイェト」社會主義共和國聯邦ノ裁判所又ハ外國ノ裁判所ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ケ確定シタル場合

B、利權者カ本契約書第十五條第一項第十八條第二十條及第二十二條ノ條件ニ違反シタル場合  
但シ政府ハ本契約廢棄前一ケ月ノ間隔ヲ置キ二回ノ警告書ヲ發スヘキモノトス

右ノ場合利權企業ハ本契約第三十八條ノ規定ニ從ヒ無償ニテ政府ノ所有ニ歸ス

政府ハ本條規定ニ從ヒ利權ヲ廢棄スルコトナク利權者カ前記各條ノ規定ニ違反セシニ依リ政府ノ被リタル損害ニ對シ賠償ヲ要求シ且ツ何時ニテモ上記違反事項停止ヲ要求スル權利ヲ有ス

### 第四十一條

政府ハ利權者ニ對シ本契約違背ノ爲生シタル損害ニ對シ賠償ヲ請求スル權利ヲ有ス

### 第四十二條

本契約並同附錄及追加ノ解釋並遂行ニ關シ政府ト利權者間ニ發生スヘキ總テノ爭議及不調ハ「ソグイェト」社會主義共和國聯邦ノ最高裁判所ニヨリテ決定セラルヘシ

利権者及第三者間ノ私權ノ爭議例令ハ國立機關「コオペラチーブ」並其ノ他ノ機關及個人間ニ於ケル爭議ハ一般ノ順序トシテ「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦ノ裁判所ニ依リ決定セラルヘシ然レトモ上記ノ規定ハ兩者合意ノ際ハ兩者ノ爭議ヲ仲裁裁判ニ委ヌル權利ヲ排除スルモノニアラス

### 第四十三條

本契約効力發生ノ日ヨリ利権者ハ本契約第十一條ニ從ヒ政府ノ引渡スヘキ財産ニ對シ同條記載ノ評價ニ基キ上記ノ財産價格ノ四%ニ相當スル金額ヲ一ケ年ノ使用料トシテ政府ニ納入スヘシ使用料ハ第十八條記載ノ報償金ト同時ニ在浦蘆斯德「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦ノ國立銀行支店ヘ利権者ニヨリテ納入セラルヘシ

### 第四十四條

本利権契約ハ石油「キール」及可燃性瓦斯ヲ除キ利権地域内ニ發見セラル、他ノ有用發掘物ヲ採收スル權利ヲ利権者ニ許與スルモノニ非ス右規定ハ普遍的發掘物ノ採收ニハ適用セス同發掘物採收ノ權利ハ本契約第二十六條ニ依リ利権者ニ提供セラレタルモノナリ

### 第四十五條

本契約ハ不定ノ價格ニ對スル契約ナルヲ以テ千九百二十三年ノ國家印紙稅法適用ニ關スル訓令第十三條(A)項ニヨリ普通ノ印紙稅ヲ徵收セラルヘシ本契約ニ對スル歩合印紙稅ハ本契約調印ノ際決定スル能ハサルヲ以テ各前年ニ利権者カ政府ヘ納入セル利権料及他種ノ納付金ヲ基礎トシテ算出セラルヘシ

毎年納ムヘキ歩合印紙稅ハ本契約第十八條ニ規定セル報償金ト同時ニ「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦ノ國立銀行ノ地方支店ニ利権者ニ依リテ拂込マルヘシ

### 第四十六條

契約書ノ原本ハ「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦人民委員會事務局ニ保管セラレ「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦人民委員會書記官ノ證明シタル謄本ヲ利権者ニ交付スヘシ

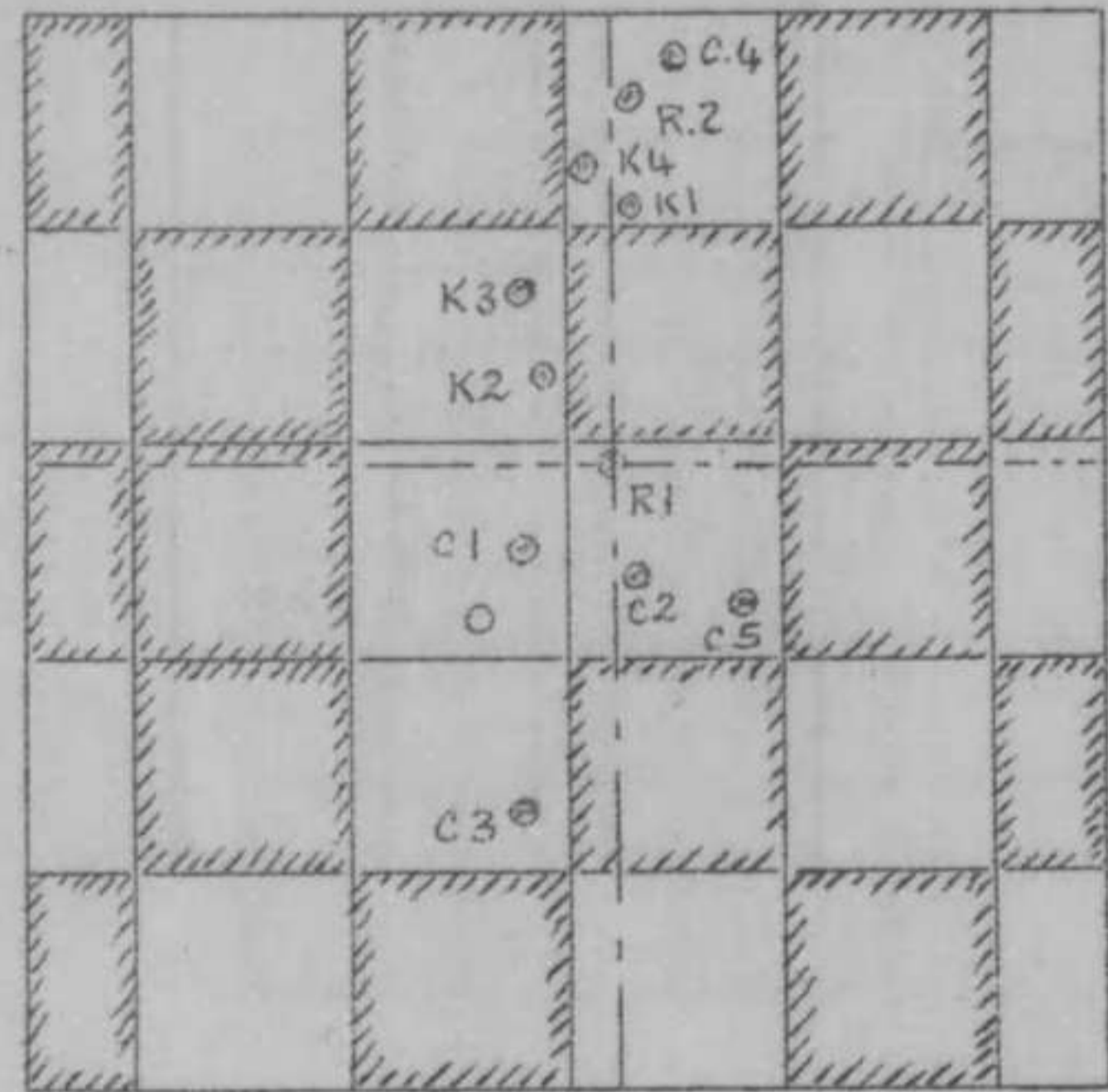
### 第四十七條

「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會幹部會ノ代表及利権者代表双方カ本契約ニ署名シタル日ヲ以テ本契約効力發生ノ日ト認ム

### 第四十八條

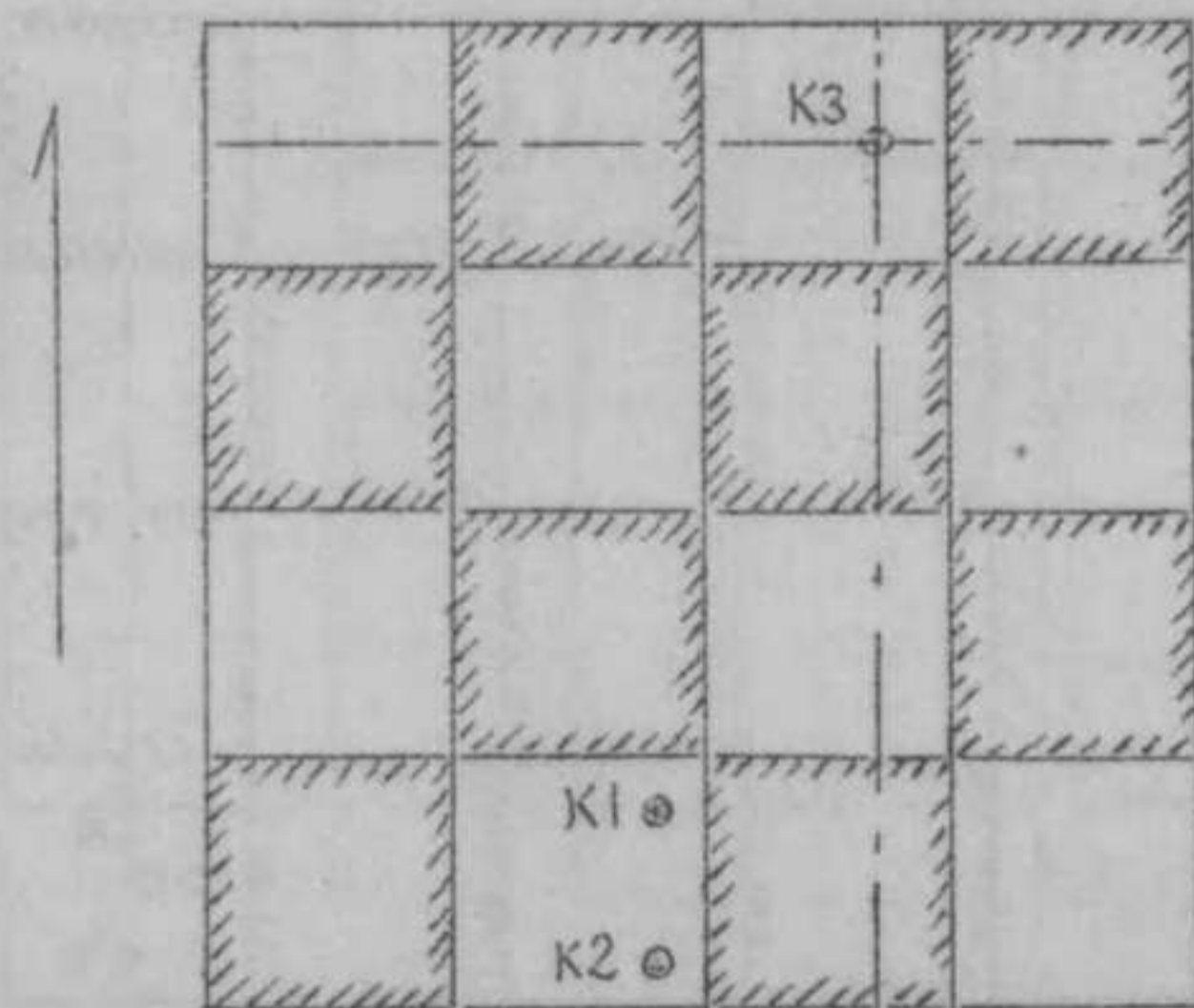
政府ノ法律の所在地ハ「モスクワ市マールヤヂミトロフカ」十八番地「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦中央執行委員會幹部會附屬利権委員會本部  
利権者ノ法律の所在地 モスクワ市プロスチャージ、レボリユーチー、ボリシヤーヤ、モスコフスカヤ、ゴスチンニツツア  
右ハ兩當事者ノ義務の所在地ニシテ同所ニ發送シタル書信ニシテ宛名人ノ領票アルトキハ交附セラレタルモノト見做ス  
兩當事者ハ相互ニ所在地ノ變更ヲ直チニ通報スルノ義務ヲ有スルモノトス

ハ オ



紅着色ノ代ニ斜線ヲ以テス

ビ ハ エ



千九百二十五年十二月八日ノ決定ニ依リ（第三百三十四號決定第一）「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦人民委員會ノ委任ヲ受ケテ

冊四

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦人民委員會ノ委任ニ依リ千九百二十五年十二月八日附ノ決定ニ基キテ本契約書ヲ蠟緘ス

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦最高人民經濟會議長  
 エフ、ジエルジンスキー  
 北サガレン石油企業組合代表者

中 里 重 次

外務人民執行委員代里

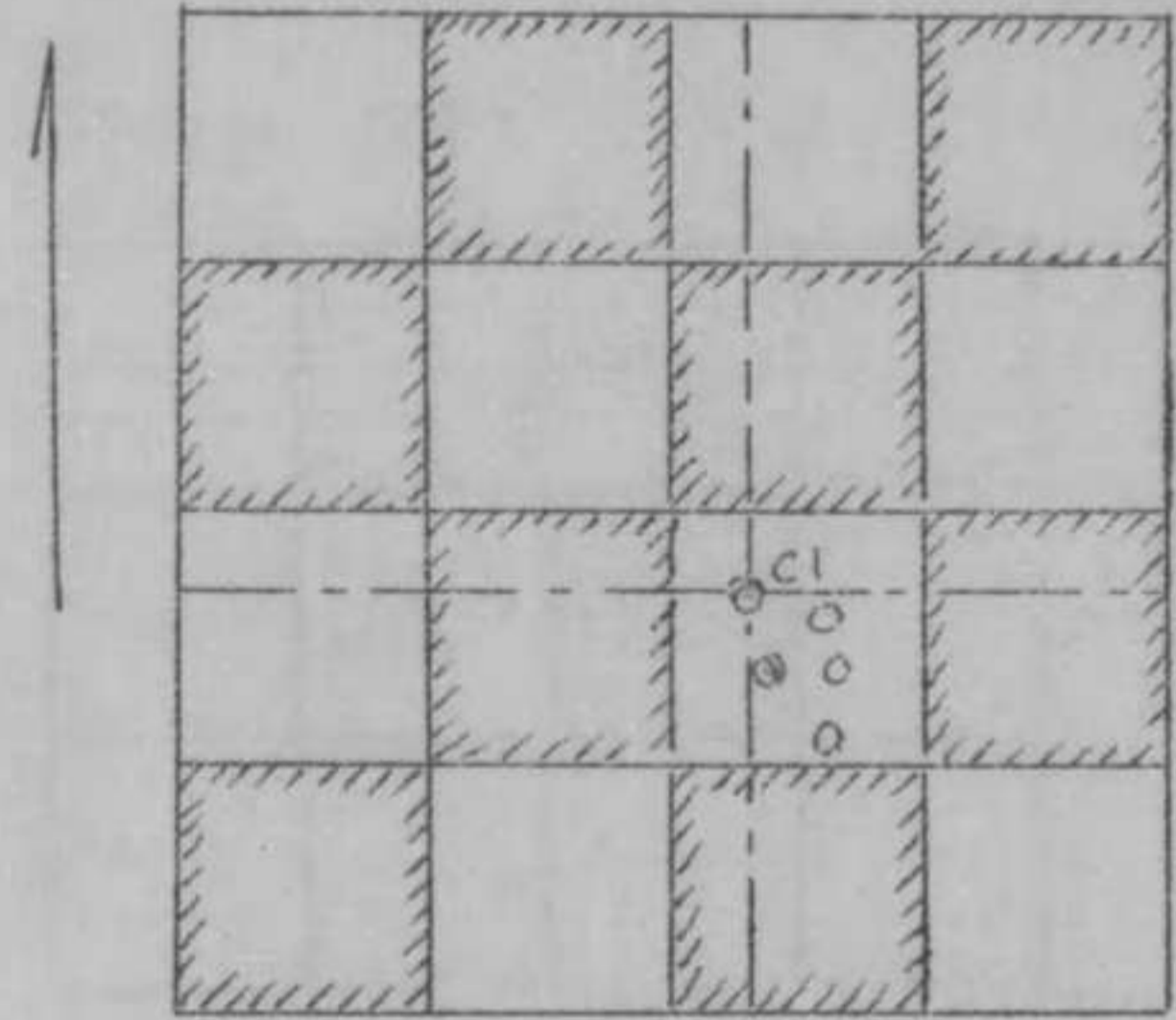
エム、リトヴキノフ

契約原本ニ對シテ一留六十五哥ノ手数料ヲ支拂ヘリ  
 右相違ナシ

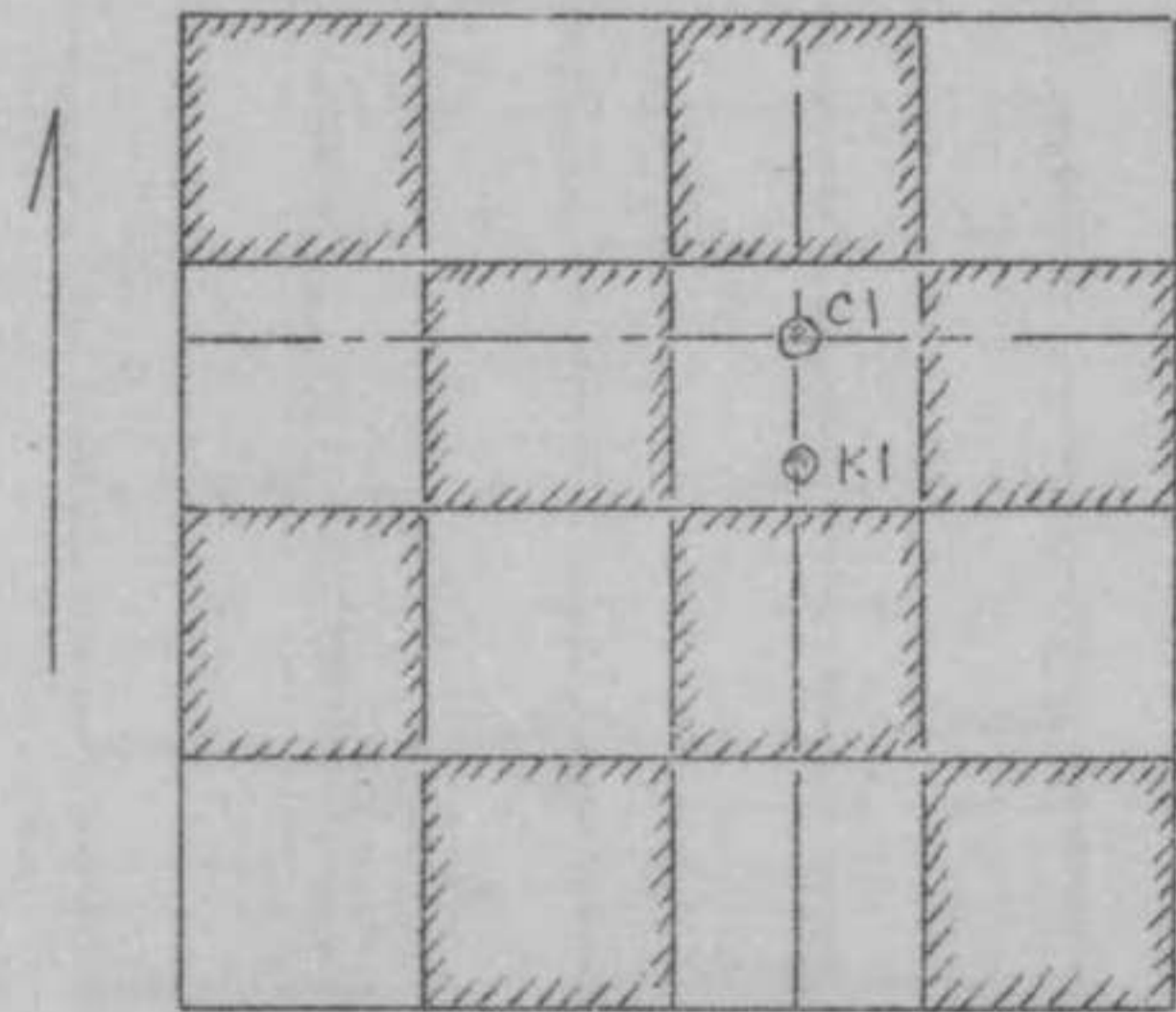
「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦秘書官

エル、フオテエフ

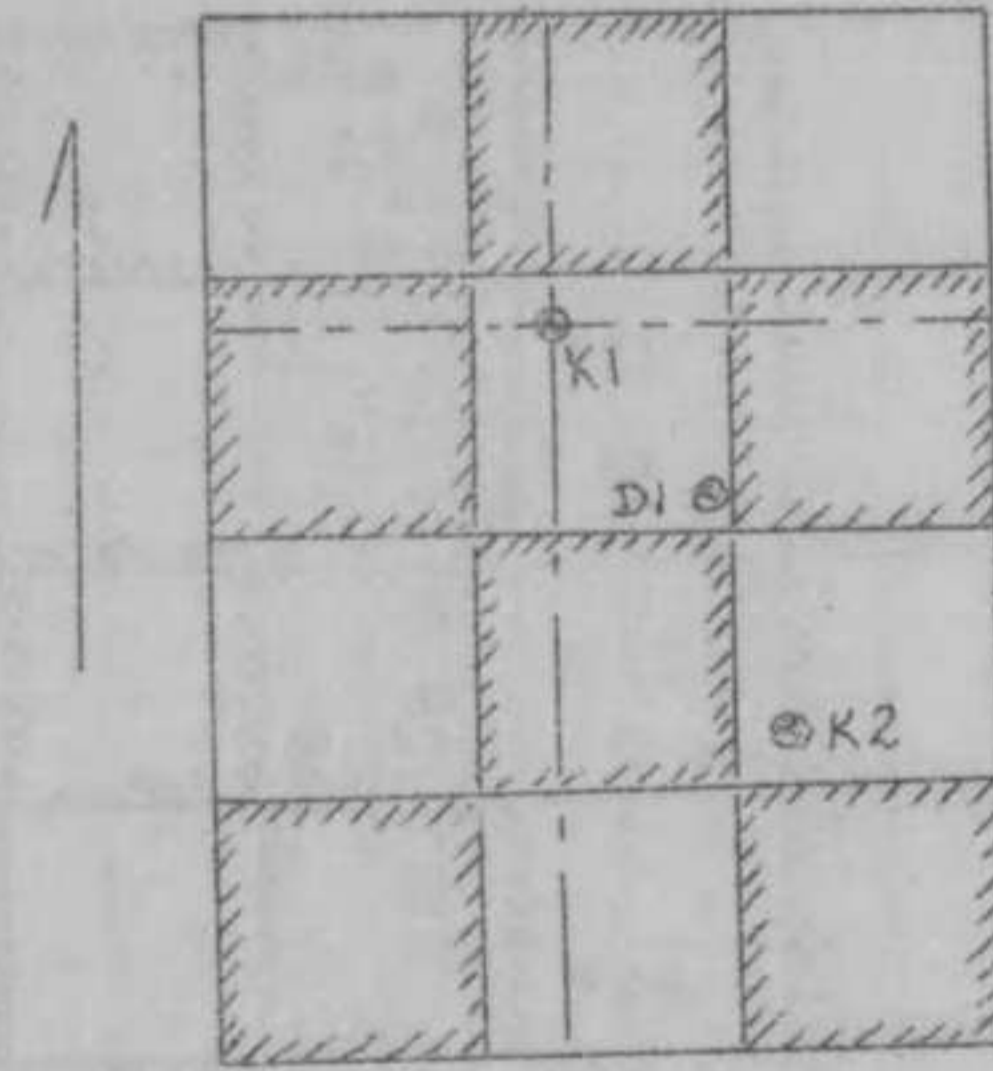
オウイヤチ



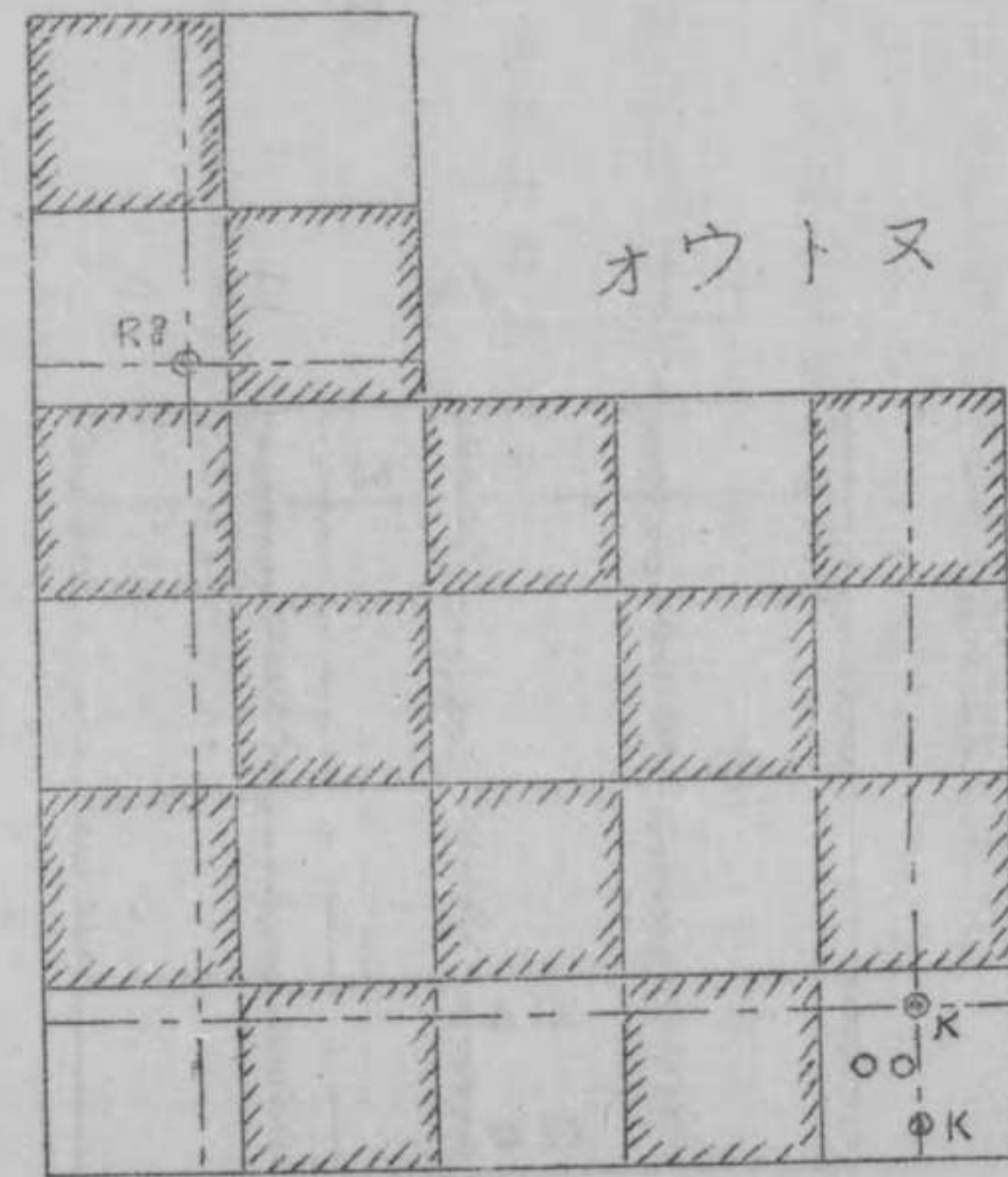
オウイヌ



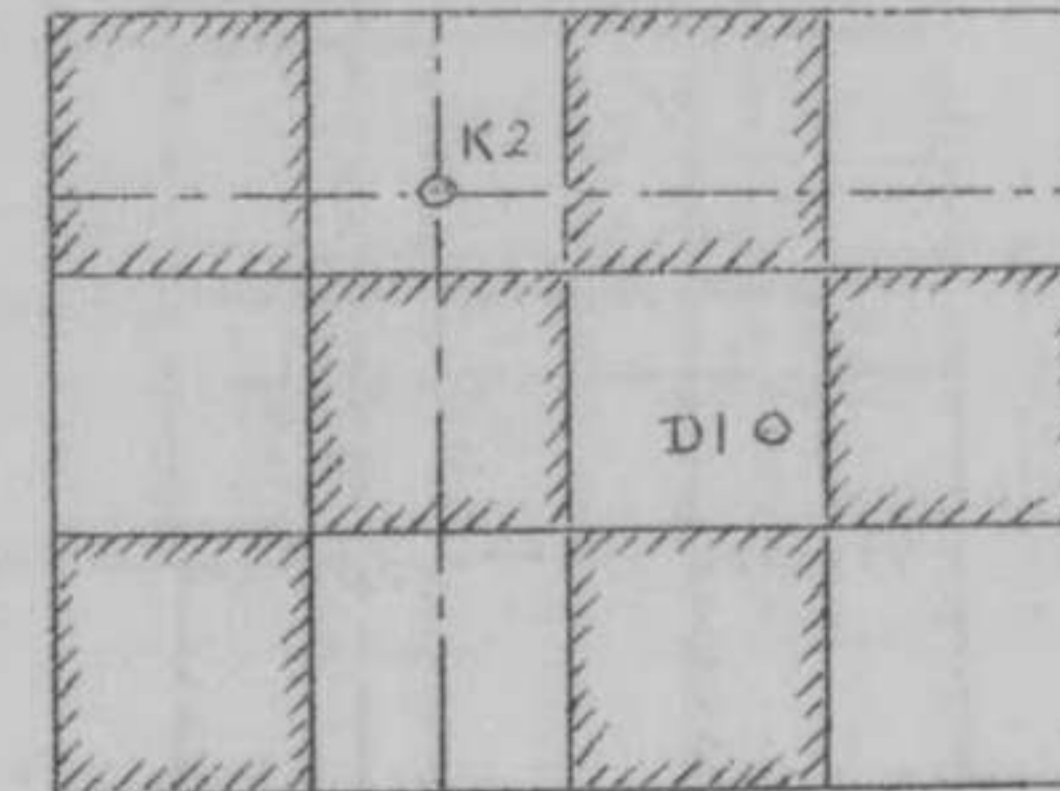
ソーツリビ



オウトヌ



#ツツレグ#ウ



リグンタカ

